

Walking Football Rule

 NPO法人
ウォーキングフットボール振興会

目次

P3	0.ルールについて	P16	9.ボールのインとアウト
P4~5	1.競技場（競技エリア）	P17~18	10.試合の結果の決定
P6	2.ボールについて	P18	11.オフサイド
P7~8	3.競技者について	P19~23	12.ファウルと不正行為
P9	4.用具について	P24	13.フリーキック
P10~11	5.審判について	P25~27	14.ペナルティキック
P12	6.第4の審判について	P28~29	15.キックイン
P13	7.試合時間について	P30	16.ゴールクリアランス（ゴールキック）
P14~15	8.競技の開始と再開について	P31	17.コーナーキック

0.ルールについて

一貫性と明確さを確保するために、NPO法人ウォーキングフットボール振興会（以下WFPG）は、レクリエーションではなく競技的なウォーキングフットボールの試合に次の競技規則を適用することを推奨しています。

これらのルールは、ゲームの本質を維持しながら、安全性、包括性、楽しさを促進するように設計されています。



1.競技場（競技エリア）について①

1)コート

ウォーキングフットボールは、競技場を区切る外壁の有無にかかわらずプレーできます。

2)マーキング

競技エリアは線でマークされます。2本の長い境界線はタッチラインと呼ばれます。2本の短い線はゴールラインと呼ばれます。競技エリアはハーフウェイラインによって2つの半分に分割されます。すべての線は同じ幅でなければならず、12cmを超えてはなりません。センターマークはハーフウェイラインの中間点にあり、平らなコーン等でピッチをマーします。

3)サイズ

競技エリアは長方形でなければなりません。タッチラインの長さはゴールラインの長さより長くなければなりません。

長さ: 最小 25m/最大 50m

幅: 最小 16m/最大 35m

4)ペナルティエリア

ペナルティエリアは、競技場の両端に次のように定義されます。各ゴールラインの中心から、4～6mの半円を描きます。ペナルティエリアの端は、各ペナルティエリア内では、ゴールポスト間の中間点から6mのところにはペナルティマークが付けられます。ペナルティエリアにはゴールキーパーのみ入ることができます。

1.競技場（競技エリア）について②

6)ゴール

ゴールは各ゴールラインの中央に設置する必要があります。ゴールは、各コーナーから等距離にある2本の垂直ポストで構成され、上部で水平のクロスバーで接続されています。ポスト間の距離(内側の測定)は3~6メートル、クロスバーの下端から地面までの距離は2メートルです。ネットはゴールとゴールの後ろの地面に取り付けることができますが、適切に支えられ、ゴールキーパーの邪魔にならないものでなければなりません。

7)安全性

ゴールは持ち運び可能ですが、安全基準を満たし、健康と安全の要件に従ってプレー中は地面にしっかりと固定されている必要があります。

8)競技面

天然芝を使用しない場合、表面は滑らかで平らで、摩耗しないものでなければなりません。木材または人工素材の使用が推奨されます。

2.ボールについて

1)品質と寸法

ボールは次の通りです:

- サッカー用5号球
- 革または他の適切な素材で作られています

2)欠陥ボールの交換

ボールが欠陥になった場合:

- プレーは停止され、元のボールが欠陥になった場所に交換ボールを落として再開されます。
- 再開時にボールが欠陥になった場合、再開がやり直されます。
- ペナルティキック中またはペナルティマークからのキック中にボールが前進し、選手、クロスバー、またはゴールポストに触れる前にボールが欠陥になった場合、ペナルティキックがやり直されます。

3.競技者について①

1)人数

試合はゴールキーパーを含む6人の選手からなる2チームで行われます。
各チームには最大5人の交代選手がいます。
チームの選手数が2人以上減少した場合、試合は有効とみなされません。

2)交代選手数

- 試合中に交代できる回数に制限はありません。交代した選手は、別の選手の交代選手として復帰できます。

3)交代手順

- 交代はプレーが中断されたときに行います。交代手順は次のとおりです。
- 交代される選手は、安全、負傷などの理由で審判が許可しない限り、境界線の最も近い地点から退場する必要があります。
- プレーエリアに入る選手は、プレーエリアを出る選手が境界線を完全に越えるまで、プレーエリアに入ることはできません。

交代は交代選手が競技エリアに入った時点で完了し、その瞬間から交代した選手は交代選手となり、交代選手は選手となります。
交代した選手と交代選手は、プレーするかどうかにかかわらず、すべて審判の権限に従わなければなりません。

4)ゴールキーパーの交代

- 交代が行われる前に審判に通知され、プレーの停止中に交代が行われた場合、どの選手または交代選手もゴールキーパーと交代することができます。

3.競技者について②

5)違反と制裁

交代が行われている間に、交代される選手が完全に退場する前に交代選手が競技エリアに入った場合:

- プレーは停止されます。
- 交代される選手は競技エリアから退場するよう指示されます。
- 試合が停止されたときにボールがあった場所から相手チームが行う間接フリーキックによってプレーが再開されます。

ただし、ボールがペナルティエリア内にあった場合、間接フリーキックはペナルティエリアラインから3 m 離れた、プレーが停止されたときのボールの位置に最も近い場所から行われます。

4.用具について

1)必須用具

各プレイヤーの必須装備は次のとおりです。

- 袖付きシャツ
- ショートパンツまたはズボン
- 靴下
- すね当て - 適切な保護を提供し、靴下で覆われるように適切な素材でなければなりません
- シューズ - サッカーまたはフットサルシューズ。床の材質に合せたものとする。

2)色

- 2つのチームは、お互いと審判員とを区別できる色を着用する必要があります。
- 各ゴールキーパーは、他のプレイヤーと審判員と区別できる色を着用します。

3)その他用具について

• 危険ではない防具、例えば柔らかく軽量なパッド入り素材で作られたヘッドギア、フェイスマスク、膝と腕のプロテクターは許可されており、ゴールキーパーのキャップやスポーツ用メガネも同様です。

4)違反と制裁

この規則に違反した場合:

- 違反を犯したプレイヤーは、用具を直すため、または紛失した用具を手に入れるために、審判員から競技場を離れるよう指示されます。プレイヤーは、まず審判員に報告し、審判員がプレイヤーの用具が正しいかどうか確認するまで競技場に戻ることはできません。プレイヤーは、ボールがプレーされていないときにのみ競技場に再入場できます。
- プレイヤーは、2人目の審判員が用具を確認した場合、ボールがプレー中であってもプレーに戻ることができます。2人目の審判員がいない場合、プレイヤーは、審判員が不完全な用具を確認するまでプレーが停止するのを待たなければなりません。

5.審判について①

1)原則

競技規則に触れる行為をした本人がセルフジャッジにて判定を行い、自己申告することを推奨する。

2)審判の権限

各試合は、試合に関連して競技規則を施行する完全な権限を持つ審判（または競技場の半分でそれぞれ審判を務める2人の審判）によって管理されます。

3)審判の決定

決定は、競技規則と「競技の精神」に従って、審判の能力の範囲内で行われます。

試合に関連する事実に関する審判の決定は最終的なものです。審判および他のすべての試合役員の決定は常に尊重されなければなりません。

4)権限と義務

審判は、次のことを行います。

- 競技規則を施行します。
- 他の試合役員（他にいる場合）と協力して試合を管理します。
- タイムキーパーとして試合の記録を取り、選手やチーム役員に対する懲戒処分や試合前、試合中、試合後に発生したその他の事件に関する情報を含む試合報告書を関係当局に提出する。

5)アドバンテージ

審判員は、次のことを行う。

- 違反行為が行われたチームがそのアドバンテージから利益を得る場合は試合の続行を許可し、その時点で予想されたアドバンテージが得られなかった場合は元の違反行為にペナルティを科す。

5.審判について②

6)懲戒処分

審判員は、次の行為を行います。

- 複数の違反が同時に発生した場合、制裁、再開、身体的重大性、および戦術的影響の観点から、より重大な違反を罰します。
- 警告、シンビン（一時退場）、および退場となる違反を犯した選手に対して懲戒処分を行います。
- 責任ある行動をとらないチーム役員に対して処分を行い、裁量により、競技エリアおよびその周辺から警告（イエローカード）または退場（レッドカード）を発令することができます。
- 2人目の審判員がない場合、審判員は退場した選手に出場停止期間の終了を知らせる必要があります。

7)負傷

審判員は、次の措置を取る。

- 選手が軽傷と判断された場合、プレーが中断されるまでプレーを続ける。
- 選手が重傷を負った場合は試合を中止し、その選手が競技場から退場するようにする。
- 出血している選手が競技場から退場するようにする。
- チームのペナルティキッカーが負傷した場合は、競技場に留まって（速やかに）治療を受けてからキックを行う。

8)外部からの干渉

審判員は、次の措置を取る。

- 規則違反または外部からの干渉があった場合は、試合を中止、中断、または終了する。
- 許可されていない人物が競技場に入ることを許可しない。

6.追加の審判について

1)職務

追加審判員の職務は、次の分野で競技規則に従って審判員が試合をコントロールするのを支援することです。

- ボール外で発生した違反を特定するのに審判員を支援する。
- 交代手順を管理し、交代する選手が競技エリアに入る前に、交代する選手が競技エリアから出ていることを確認する。
- 競技エリアに入るすべての交代選手の用具を確認する。
- 紛失または欠陥のある用具を交換するために審判員によって競技エリアから送り出された選手が、競技エリアに戻る前にチェックされていることを確認する。
- 出血している選手が審判員によって競技エリアから退場させられた場合、審判員は、その選手が競技エリアに再び入る前に出血が止まっていることを確認する必要がある。
 - 試合の詳細をすべて記録します。
 - 試合から一時的に出場停止となった選手のタイムキーパーを務めます。
 - テクニカルエリア、ベンチ、交代エリアでチーム選手または役員が不正行為を行った場合は、審判に報告します。
- 審判から要求されたその他の任務を遂行します。

7.試合時間について

試合は、それぞれ30分の2つのピリオドに分けられ、次の条件が適用されます。

- 各ピリオドでは、中断による時間のロスを考慮する必要があります。
- ペナルティキックが行えるように、ピリオドの所要時間を延長する必要があります。
- ピリオド間のインターバルは5分を超えてはいけません。

※注記

- 競技規則では、試合を中断したり、エンドを変更したりすることなく、完全にプレーすることが許可される場合があります。
- 1日中に複数の試合が行われるトーナメントでは、WFPGはハーフごとに10分か30分の2つのピリオドを均等にすることを推奨しています。これにより、トーナメント主催者は柔軟に対応できます。

8.競技の開始と再開について①

1)キックオフは試合の各ハーフ/ピリオドを開始し、ゴールが入った後にプレーを再開します。

フリーキック、ペナルティキック、キックイン、ゴールクリアランス（ゴールキック）、コーナーキックはプレーを再開する他の方法です。ボールがプレーされていないときに反則が発生した場合、プレーの再開方法は変わりません。

2)キックオフ手順

- コイントスで勝ったチームが、前半にどのゴールを攻撃するか、またはキックオフを行うかを決定します。
- 上記の結果に応じて、相手チームがキックオフを行うか、前半にどのゴールを攻撃するかを決定します。
- 後半/ピリオド（およびそれ以降のピリオド）では、チームはエンドを変えて反対側のゴールを攻撃します。キックオフは引き続き2チーム間で交互に行われます。
- すべてのキックオフについて:
 - キックオフを行うプレーヤーを除くすべてのプレーヤーは、フィールドの自分の半分にいる必要があります。
 - キックオフを行うチームの対戦相手は、ボールがプレーされるまで少なくとも3m離れていなければなりません。
 - ボールはセンターマーク上で静止している必要があります。
 - 審判は合図を出します。-ボールは蹴られて明らかに動いたときにプレー中になります。
 - キックオフから対戦相手に対して直接ゴールを決めることはできません。ボールがキッカーのゴールに直接入った場合は、対戦相手にコーナーキックが与えられます。ボールが対戦相手のゴールに直接入った場合は、対戦相手にゴールクリアランス（ゴールキック）が与えられます。

■違反と罰則

キックオフを行う選手が、ボールが他の選手に触れる前に再度ボールに触れた場合、間接フリーキックが与えられます。

キックオフ手順に関するその他の違反があった場合、キックオフはやり直されます。

8.競技の開始と再開について②

2)ドロップボール手順

・審判は、最後にボールに触れたチームの選手1名に、ボールが最後に選手または審判員に触れた位置でドロップします。
両チームの他のすべての選手は、ボールがプレーされるまで、ボールから少なくとも3m離れていなければなりません。
プレーが停止されたときにボールがゴールキーパーの所有物であった場合、ボールはゴールキーパーのペナルティエリアでドロップされます。
ボールは地面に触れた時点でプレー中となります。

■違反と罰則

ボールが次の場合、再度ドロップされます:

- ・地面に触れる前にプレーヤーに触れた場合。
- ・地面に触れた後、プレーヤーに触れることなくプレーエリアから出た場合。

ドロップされたボールが少なくとも2人のプレーヤーに触れることなくゴールに入った場合、プレーは次の方法で再開されます:

- ・相手チームのゴールに入った場合はゴールクリアランス(ゴールキック)。
- ・チームのゴールに入った場合はコーナーキック

9.ボールのインとアウト

1)ボールがアウト オブ プレーになる場合

ボールがアウト オブ プレーになるのは次の場合です:

- ボールが地面または空中でゴール ラインまたはタッチラインを完全に越えた場合。
- 審判によってプレーが停止された場合。
- 屋内でプレーしているときに天井に当たった場合。
- ボールが審判員に触れた場合。

これらのすべての場合、プレーはドロップ ボールで再開されます。

2)ボールがインプレーになる場合

ゴールポスト、クロスバー、または、コーナーフラッグポストに跳ね返ってプレーエリア内に留まっている場合、ボールはインプレーになります。

■違反と罰則

試合が屋内で行われ、ボールが天井に当たった場合、相手チームに間接フリーキックが与えられる。

間接フリーキックは、ボールが天井に当たった地点から行う。

3)ボールの高さ制限

ボールはクロスバーの高さより下になければならない。

ペナルティエリア内で高さ違反が発生し、ゴールキーパーが犯した場合、違反が起こった場所に最も近いペナルティエリアラインから3mの地点で間接フリーキックが与えられる。

このルールの例外は、ゴールキーパーによるセーブやブロックの結果として、ボールが指定された高さ制限を超えた場合です。この場合、ゴールキーパーはボールの所有権を獲得し、ゴールクリアランスでプレーを再開する必要があります。

10.試合の結果の決定①

1)ゴールが得点された場合

ゴールを決めたチームが反則を犯していない場合、ボール全体がゴールラインを越え、ゴールポストの間を通り、クロスバーの下を通過したときにゴールが得点されます。

攻撃側のゴールキーパーは得点できません。ゴールキーパーがボールを相手チームのゴールに蹴り込んだ場合、プレーはゴールクリアランス（ゴールキック）で再開されます。

2)勝利チーム

試合中により多くのゴールを決めたチームが勝者となります。両チームが同数のゴールを決めたか、ゴールがなかった場合は、試合は引き分けとなります。

競技規則で引き分けまたはホームアンドアウェイの試合後に勝利チームを決定することが求められている場合、勝利チームを決定するために許可されている唯一の方法はペナルティマークからのキックです。ペナルティ マークからのキックは試合終了後に行われFAB 競技規則が適用されます。

■手順

- 他の考慮事項(グラウンドの状態、安全性など)がない限り、審判はコインを投げてキックを行うゴールを選択します。これは、安全上の理由またはゴールまたは競技面が使用できなくなった場合にのみ変更できます。
- 審判はコインを投げ、トスに勝ったチームが1回目のキックを行うか2回目のキックを行うかを決定します。
- 審判は行われたキックの記録を保持します。
- 各チームは交互に5回のキックを行う必要があります。• 試合終了時に競技エリア内にいるか、一時的に競技エリア外にいる選手（負傷、用具の調整中、シンビンなど）のみがキックを行える。
- ペナルティマークからのキック前またはキック中に、一方のチームの選手数が相手チームよりも多い場合は、相手チームと同じ数に減らし、除外される各選手の名前と番号を審判に通知しなければならない。

10.試合の結果の決定②

11.オフサイド

■手順_続き

- 両チームが指定されたキック回数を終える前に、一方のチームが他方のチームが獲得できるゴール数より多く得点した場合、たとえ指定されたキック回数を完了したとしても、それ以上のキックは行わない。
- 両チームが指定された回数のキックを行った後、両チームが同じ数のゴールを決めた場合、同じ順番でキックが続けられ、同じ回数のキックで一方のチームがもう一方のチームより1ゴール多く決めるまで続きます。
 - 資格のある選手は誰でもゴールキーパーと交代できます。
- ペナルティ マークからのキックが行われる際、資格のある選手と審判員のみが競技エリアに留まることができます。
 - キックを行う選手と2人のゴールキーパーを除くすべての選手は、キックが行われるハーフとは反対側に留まらなければなりません。
 - キックの前またはキック中に続行できないゴールキーパーは、人数を均等にするために除外された選手、またはチームが許可されている最大数の交代選手を使用していない場合、指名された交代選手と交代できますが、交代したゴールキーパーはそれ以上参加できず、キックを行うことはできません。

1)ウォーキングフットボールにはオフサイドはない

12.ファウルと不正行為①

1)ウォーキングフットボールは、非接触型のゲームです。ファウルや不正行為は、次のように間接フリーキックで罰せられます。プレイヤーが、審判が不注意、無謀、危険、または過度の力を使用しているとみなす方法で、相手に対して以下のいずれかの違反を犯した場合、間接フリーキックが相手チームに与えられます。

- ・突進する。
- ・蹴る、または蹴ろうとする。
- ・打つ、または打とうとする (頭突きを含む)。
- ・つまずかせる、またはつまずかせようとする。
- ・ジャンプする。
- ・押す。
- ・タックルまたはチャレンジする。

2)プレイヤーが以下のいずれかの違反を犯した場合も、間接フリーキックが相手チームに与えられます。

- ・歩かない。
- ・他のプレイヤーがボールをプレーしていないのに、ボールに5回以上触れる。
- ・ペナルティエリアに入る (攻撃側のプレイヤー)。
- ・相手を押さえる。
- ・体が不自然に大きくなっているときに、手や腕でボールに触れる。
- ・蹴ったボールが2mの高さに達する
- ・相手がプレーしている、またはプレーしようとしているボールをプレーするためにスライディングする (スライディングタックル)。
- ・手や腕で故意にボールに触れる (例えば、手や腕をボールに向かって動かす)。
- ・偶然であっても、手や腕から直接、または偶然であっても、ボールが手や腕に触れた直後に、相手のゴールに得点する。
- ・ボール、相手、または審判員に物を投げたり蹴ったり、手に持った物でボールに触れる。
- ・ボールをヘディングする。
- ・誰かに噛みつく、または唾を吐く。

※歩くとは、「常に少なくとも片足が地面に接している」ことと定義されます。(WFPGでは、時速6Km推奨)

12.ファウルと不正行為②

3)ゴールキーパーが以下のいずれかの違反を犯した場合、間接フリーキックが与えられます。

- ・ペナルティエリア内で、手、腕、または足でボールに6秒以上触れたり、コントロールしたりした場合。
- ・パスしたばかりのチームメイトから、他の選手と接触することなく、ボールを直接受けた場合。
- ・ペナルティエリア内でボールに6秒以上触れずに静止させた場合。

ペナルティエリア内で高さ違反が発生し、ゴールキーパーが違反を犯した場合、違反が起こった場所に最も近いペナルティエリアラインから3mの地点で間接フリーキックが与えられます。このルールの例外は、ゴールキーパーによるセーブまたはブロックの結果として、ボールが指定された高さ制限を超えて上昇した場合です。この場合、ゴールキーパーがボールを所有し、ゴールクリアランス（ゴールキック）でプレーを再開する必要があります。

4)間接フリーキックは、審判員の判断により、選手が以下の行為を行った場合にも与えられます。

- ・危険なプレーをする。
- ・接触することなく相手チームの前進を妨害する。
- ・異議を唱える、攻撃的、侮辱的、または暴言を吐く、またはジェスチャーをする、またはその他の言葉による違反行為をする。
- ・ゴールキーパーがボールを手から放すのを妨げる。
- ・ルールに定められていない、プレーが中断され、選手に警告または退場を命じるその他の違反行為をする。

ゴールキーパーがオーバーアームスローでボールをプレーに戻した場合も、相手チームに間接フリーキックが与えられます。

12.ファウルと不正行為③

5)懲戒処分

ウォーキング フットボールでは、一時的な出場停止 (シンビン) の使用と、レッド カードの発行による選手の退場が推奨される懲戒処分です。審判員は、従来警告に値する違反とみなされるすべてのケースで、一時的な出場停止 (イエロー カード) を使用する必要があります。審判員が懲戒処分を課すオプションは次のとおりです。

- ・ペナルティエリア内で、手、腕、または足でボールに6秒以上触れたり、コントロールしたりした場合。選手にイエロー カードを発行し、一時的に出場停止にする。
- ・選手にレッド カードを発行し、永久に出場停止にする。

イエロー カード違反には、常に一時的な出場停止が伴う必要があります。ウォーキング フットボールでの出場停止時間は5分です。選手の一時出場停止解除は、審判員または追加の審判員の指示に従って行う必要があります。

※注記

- ・トーナメント プレイでは、試合時間が短縮されるため、一時出場停止は3分に短縮されることがあります。

6)一時出場停止

ウォーキング フットボールでは、一時的な出場停止一時出場停止となったプレーヤーには、審判員からイエロー カードが提示され、5分間出場停止となることが通知されます。

一時出場停止の長さは、試合前に大会側が設定する必要があります。

プレーヤーは、必要な出場停止時間の間、プレイ エリアを離れ、指定された「シンビン」エリアに留まる義務があります。

各チームごとに「シンビン」エリアを個別に指定する必要があります。指定された「シンビン」エリアがない場合、出場停止となったプレーヤーは、審判員が見ることができるエリアに留まり、チーム役員および交代選手の隣で待機する必要があります。

審判員または追加の審判員は、出場停止期間の終了をプレーヤーに通知し、試合に復帰するよう求めます。柵が使用されている場合、選手は開口部を通過して競技場に戻らなければなりません。

12.ファウルと不正行為④

7)一時退場

選手が以下の違反を犯した場合、イエローカードが出され、一時的に競技から除外されます:

- C1 – スポーツマンシップに反する行為
- C2 – 言葉や行動で異議を唱える
- C3 – 競技規則に執拗に違反する
- C4 – プレーの再開を遅らせる:
 - スローイン (ウォーキング フットボールのキックイン) を行うように見せかけて、突然チームメイトに任せる
 - 交代時にフィールドを離れるのを遅らせる
 - 審判がプレーを止めたときにボールを蹴ったり持ち去ったり、故意にボールに触れたりする
 - スローイン (キックイン) を間違った位置から行い、やり直しを強いる
- C5 – コーナーキック、キックイン、フリーキック、またはゴールクリアランスでプレーが再開されるときに、必要な距離を守らない
- C6 – 審判の許可なくプレーエリアに入る、または再入場する、または交代手続き違反を犯す
- C7 – 交代以外で審判の許可なく故意にプレーエリアを離れる

12.ファウルと不正行為⑤

8)退場となる違反

選手は退場となり、以下の違反を犯した場合、レッドカードが提示される。

- S1 – 重大な反則行為
- S2 – 暴力行為
- S3 – 唾を吐く、または誰かに噛みつく
- S4 – ハンドの違反により相手チームのゴールまたは明らかな得点機会を阻止する（これは、ゴールキーパーが自陣のペナルティエリア内にいる場合は適用されない）
- S5 – フリーキックまたはペナルティキックで罰せられる違反により、プレイヤーのゴールに向かっていて相手チームの明らかな得点機会を阻止する
- S6 – 攻撃的、侮辱的、または暴言を吐く
- S7 – 同じ試合で2枚目のイエローカードを受ける

プレイヤーが追加の規則違反を犯していないのに競技エリアから退場させられるためにプレーが中断された場合、試合は相手チームに与えられる間接フリーキックで再開され、違反が起こった場所。ただし、違反がペナルティエリア内で行われた場合、違反が起こった場所に最も近い場所のペナルティエリアラインから3メートル離れた場所から間接フリーキックが行われる。

13.フリーキック

すべてのフリーキックは間接です。

1)ボールがゴールに入った場合

間接フリーキックが直接相手チームのゴールに蹴られた場合、ゴールクリアランス（ゴールキック）が与えられます。

間接フリーキックが直接チームのゴールに蹴られた場合、コーナーキックが与えられます。

■手順

すべてのフリーキックは、違反が発生した場所から行われますが、次の場合は除きます。

- ペナルティエリアから3 m 未満で攻撃側チームに与えられるフリーキック。違反が発生した場所に最も近い地点のペナルティエリアラインから3 m の位置で行われます。
- ペナルティエリア内で守備側チームに与えられるフリーキック。この場合、ボールはゴールキーパーに渡され、アンダースローでボールをプレーに戻します。

2)ボール

ボールは静止していなければならない、キッカーはボールが他のプレーヤーに触れるまでボールに触れてはならない。

ボールは蹴られて明らかに動いたときにプレー中である。

ボールがプレー中になるまで、すべての対戦相手はボールから少なくとも3メートル離れていなければならない。

■違反と罰則

フリーキックが行われるときに対戦相手がボールに必要な距離よりも近い場合、アドバンテージを適用できない限り、キックはやり直される。

ボールがプレー中になった後、キッカーがボールを他のプレーヤーに触れる前にボールに再び触れた場合、間接フリーキックが与えられる。

14.ペナルティキック①

1)ペナルティキックは、以下の違反に対して与えられます。

- 守備側の選手が故意に自分のペナルティエリアに入る。
 - ゴールキーパーがペナルティエリア内で7つの退場となる違反のいずれかを犯す。
 - ゴールキーパーが故意に自分のペナルティエリアから出る。

いずれかのハーフで5回の違反を犯したチームには、ペナルティが与えられます(クロスバーの高さを超えるボールを除き、審判がフリーキックのカウントを与えたすべての違反)。

ペナルティキックから直接ゴールを決めることができます。

各ピリオドの終了時に、ペナルティキックを行うための追加時間が与えられます。

■手順

ボールはペナルティマーク上に静止している必要があり、ゴールポスト、クロスバー、ゴールネットは動いてはいけません。

ペナルティキックを行う選手は明確に識別できる必要があります。守備側のゴールキーパーは、ボールが蹴られるまで、ゴールポストの間、キッカーと向き合ってゴールライン上に留まり、ゴールポスト、クロスバー、ゴールネットに触れてはならない。キックが行われるとき、ゴールキーパーは少なくとも片足の一部をゴールライン上に（または、足が空中にある場合はゴールラインに沿って）置かなければならない。キッカーとゴールキーパー以外のプレーヤーは、次の位置にいないといけない。

- ボールから少なくとも3メートル離れている。
- ペナルティマークの後ろまたは横にいる。
- 競技エリア内にいる。
- ペナルティエリアの外にいる。

ペナルティキックを行うプレーヤーは、次の条件を満たしている必要がある。

- ボールを前方に蹴らなければならない。
- ボールが他のプレーヤーに触れるまで、再びボールをプレーしてはならない。
- ボールから2メートル以内の地面に両足を付けてアプローチを開始しなければならない。

ボールが蹴られ、明らかに動いたとき、ボールはプレー中である。

ペナルティキックは、ボールの動きが止まるか、プレーの場から外れるか、審判が反則でプレーを止めたときに完了します。

14.ペナルティキック②

2)反則と罰則

審判がペナルティキックを行うよう合図したら、キックを行わなければなりません。

ボールがプレーされる前に、次のいずれかが発生した場合:

- 守備側のプレーヤーが反則を犯した場合:

- ゴールが決まらない場合は、キックをやり直す。
- ゴールが決まった場合は、キックをやり直さない。

- キックを行うプレーヤーのチームメイトが反則を犯した場合:

- ゴールが決まった場合は、キックをやり直す。
- ゴールが決まらない場合は、キックをやり直さない。

- キックを行うプレーヤーが、ボールがプレーされた後に反則を犯した場合: - 相手チームに間接フリーキックが与えられる。

キッカーが助走を終えた後にボールを蹴ろうとフェイントすると（助走中のフェイントは許可されます）、審判はキッカーに警告（イエローカード）を与えます。

14.ペナルティキック③

3)ペナルティキックの結果

	ゴール	ノーゴール
攻撃側選手の侵入	ペナルティがやり直される	間接フリーキック
守備側選手の侵入	ゴール	ペナルティがやり直される
ゴールキーパーの反則	ゴール	ペナルティがやり直され、ゴールキーパーに警告
ボールが後ろに蹴られる	間接フリーキック	間接フリーキック
不正なフェイント	間接フリーキックとキッカーへの警告	間接フリーキックとキッカーへの警告
間違ったキッカー	間違ったキッカーへの間接フリーキックと警告	間違ったキッカーへの間接フリーキックと警告
ボールへの不正なアプローチ	間接フリーキック	間接フリーキック

15.キックイン①

1)キックインはプレーを再開する方法です。
キックインから直接ゴールを決めることはできません。
キックインは、次の場合に与られます。

- ボール全体が地上または空中でタッチラインを越えたとき。
- タッチラインを越えた場所から。
- 最後にボールに触れた選手の相手に。

2)ボールと選手の位置

ボールは次の条件を満たしている必要があります。

- タッチライン上に静止している。
- どの方向にも蹴ることができます。

キックインを行う選手は、蹴らない方の足はタッチライン上またはタッチラインの後ろで、蹴る方の足はタッチライン上またはタッチラインの後ろでボールに触れなければなりません。守備側の選手は、キックインが行われる場所から少なくとも3m離れなければなりません。

■手順

- キックインを行う選手は、ボールが他の選手に触れるまで、ボールを再びプレーしてはいけません。
- ボールは蹴られて明らかに動いた時点でプレー中となります。

15.キックイン②

3)違反と罰則

•次の場合、相手チームの選手がキックインをやり直します。

- キックインが誤って行われた場合。
- ボールがタッチラインを越えた場所以外の位置からキックインが行われた場合。

キックインした選手がボールが他の選手に触れる前に再度ボールをプレーした場合、相手チームに間接フリーキックが与えられる

16.ゴールクリアランス（ゴールキック）

1)ゴールクリアランス（ゴールキック）は、プレーを再開する方法です。

ゴールクリアランスから直接ゴールを決めることはできません。

ゴールクリアランスは、次の場合に与えられます。

- ボール全体が、攻撃側チームの選手に最後に触れた後、地上または空中でゴールラインを越え、ゴールが認められなかった場合。
- 選手が相手チームのペナルティエリアに入った場合。

■手順

- 相手チームはペナルティエリアの外にいなければなりません。
- ゴールキーパーは、ボールが他の選手に触れるまで、ボールを再びプレーしてはいけません。
- 守備側チームのゴールキーパーがペナルティエリア内の静止した地点からボールをアンダーアームスローまたはキックした場合、ボールはプレー中となります。

2)違反と罰則

ボールがペナルティエリア内から投げられたり蹴られたりしていない場合、ゴールクリアランス（ゴールキック）はやり直されます。

ゴールキーパーがオープンプレーでチームメイトからボールを受け取った場合、ゴールキーパーはボールに触れ、ボールを拾うことができます。

ゴールキーパーがボールを放った後、ボールが相手選手に触れるか、ゴールキーパーのチームの少なくとも2人の選手に触れる前に再びボールに触れた場合、ペナルティエリアラインから3m離れた違反の発生した場所から間接フリーキックが与えられます

17.コーナーキック

1)コーナーキックは、プレーを再開する方法です。

コーナーキックから直接ゴールを決めることができますが、相手チームに対してのみです。

コーナーキックは、ボール全体が、最後に守備側の選手に触れた後、地上または空中でゴールラインを越え、ゴールが認められなかった場合に与えられます。

■手順

- ボールは、最も近いコーナーのコーナーに置かれます。
- 相手は、ボールがプレーされるまで、ボールから少なくとも3 m 離れていなければなりません。
- ボールは、攻撃側の選手によって蹴られます。
- キッカーは、別の選手によってプレーされるか触れられるまで、ボールに再び触れてはいけません。

2)違反と罰則

コーナーキックを蹴った選手が、ボールが他の選手にプレーされるか触れられる前に再びボールに触れた場合、間接フリーキックが与えられます。その他の違反の場合、コーナーキックはやり直されます。

Contact Us



URL : <https://wfpg.jp>

E-MAIL : contact@wfpg.jp